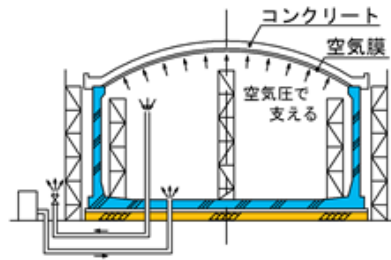


1 万世帯へ安全な水を ～スリランカに低コストで 100 年もつ給水タンクを導入～ －株式会社安部日鋼工業と JICA、官民連携事業にかかる契約を締結－

国際協力機構（JICA）は、2014 年 12 月 10 日、株式会社安部日鋼工業（ABE）と「経済的な水道整備に資する PC タンクの普及・実証事業」にかかる契約を締結しました。



【写真】

(左) PC（プレストレスト・コンクリート）タンク

(右上) エアードーム膜貼付作業

(右下) エアードーム工法（断面図）

スリランカ民主主義社会共和国（以下、スリランカ）では、特に都市部において水道創設期に整備された施設の老朽化対策や、経済成長に伴う水需要の拡大により、配水池等の給水施設の更新・増設は喫緊の課題となっています。一方で、特に都市部ではすでに住宅地等の土地利用が進み広大な用地取得も難しい状況にあり、また厳しい財政状況から、低コスト、短い工期、少ない用地で建設可能な耐久性の高い給水タンクに対するニーズが高まっています。

今回契約した事業は、スリランカ西部州バールワラ市に、配水池として最高の耐久性を持つプレストレスト・コンクリート構造の給水タンク（PC タンク）を建設し、適切な運転・維持管理を実施するものです。PC タンクは、従来の鉄筋コンクリート（RC）構造に比べ、低コスト、短い工期、少ない用地で建設が可能で、日本国内でも 8,000 基以上設置され、そのうち 5,000 基以上（国内シェア 6 割）が ABE の PC タンクです。耐久性についても RC 構造に比べ数倍の強度があり、一般的に 100 年以上もつとされています。東日本大震災では被災地の PC タンクのほとんどが損傷を免れたことで、地震にも強いことが証明されました。また、本事業で ABE が国内特許を有するエアードーム工法を導入することで、建設工事の安全性の向上及び更なる工期短縮化を図る考えです。

配水池は一時的に水を貯え、水需要変化に応じて配水を行う、安定かつ効率的な水供給に不可欠な施設です。今回対象地域にも 1,360m³ の配水池が既設されていますが、現在の水需要に対して既存の配水池で貯留できる水量が不足し時間給水となっています。そこで今回、2,000m³ 規模の PC タンクを配水池として新設し貯留容量を増大させることで、既存の水消費者に対する 24 時間給水の実現及び、1 万世帯への新規接続が期待されています。本事業を通じ、対象地域への安全な水の安定供給に貢献するとともに、PC タンクの普及が進展することで、全国レベルで経済的な水道整備の普及促進に貢献することが期待されています。

今回受注した株式会社安部日鋼工業としては、今後益々需要が伸びると予測されるスリランカ等海外での事業展開に注力していくことを目指しています。2 年かけて本事業を活用しながらスリランカでの販路を開拓し、更に数年かけてスリランカ市場へ拡販するというビジョンに基づき、JICA 普及・実証事業に応募し、今回、採択されたものです。

※この取組は、日本の中小企業を対象に、JICA が 2012 年度より開始した「普及・実証事業」として実施されるものです。この事業では、日本の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたものです。JICA は、引き続き、支援国の開発課題解決に資する日本の優れた技術の普及を支援していきます。

以上